宮崎市きよたけ歴史館だより
平成２６年１２月（第１２７号）

しのぶ草

（隔月発行）
発　行：宮崎市教育委員会文化財課
宮崎市きよたけ歴史館
所在地：宮崎市清武町加納甲３３７８－１
TEL 0985-84-0234　FAX 0985-84-2634

＜息軒先生のルーツをたどって＞

本館では、１１月のみやざき文化財マンスにちなみ、２つのイベントを開催しました。

一つ目は、11 月 8 日(土)に「**文化探訪バスツアー**」では、26 名の参加者で安井息軒先生ゆかりの地である飫肥を訪ねました。最初に、飫肥藩主伊東祐相に招かれ、安井滄洲・息軒父子がそれぞれ初代総裁・助教を務めた飫肥藩校振徳堂を訪ねました。ここから小倉処平や小村寿太郎等の俊英がたくさん育っています。

振徳堂にて

その後、息軒先生らが居を構えられていた加茂馬場を経て、旧安国寺跡の奥にある滄洲先生のお墓にお参りしました。ここには、安井家の先祖と次女美保さんのお墓もあります。

その他、飫肥城下の街並みや伊東家累代の墓所と清武の郷校明教堂で学び、後に飫肥藩最後の家老となった平部嶠南の墓がある五百禰神社（元報恩寺）や小村寿太郎の墓所等を訪ねました。

当日は快晴・無風の絶好のコンディションの中、ゆかりの地をゆっくりと散策することができました。文化財課並びに飫肥の歴史に詳しい２名の専門家の解説に熱心に耳を傾けながら、参加者はとても満足そうで、安井家を中心とした飫肥の歴史への理解を深められました。

今一つのイベントは 11 月 15 日（土）に開催した「**歩こや清武**」で、息軒先生が幼少時代に学び、遊んだ本館のある中野地区周辺にある蓮徳寺跡や伊東家僑墓、安井家墓所を巡った後、清く賢く美しく、素晴らしい伴侶でいらした佐代夫人の出身地、岡方面を目指して歩を進めました。

ふれあい橋から岡方面を望む

今回は、ウォーキングをしながら、短歌若しくは俳句を一首詠んでいただくという趣向を取り入れました。

この日も快晴で、暖かな絶好のコンディションの下、個人や、仲間、家族等 34 名が参加され、身近な歴史への理解を深めながら有意義な時間を過ごされました。

石畳　息軒先生　来てるかな？　（詠み人知らず）

＜清武郷の隠れた史跡　第２回＞

「中野地区の寺院跡②」

前回（124 号掲載）は、当館近隣の寺院跡をご紹介しましたが、今回は、さらに東部の寺院跡をご紹介します。

宮崎学園短大の南東側、中野神社東側（字槍ノ内）には、藩主伊東家の菩提寺である飫肥報恩寺の末寺文永寺（臨済宗）がありました。この寺跡の墓地には、歴代藩主を祀った「伊東家僑墓」、息軒を輩出した安井家の墓所である「歴代安井家墓地」、伊東義祐・祐兵・祐慶の三代に仕え、清武地頭もつとめた河崎祐長の墓所「河崎駿河守墓」、三つの市指定文化財があります。

伊東家僑墓

そして、この文永寺の東側には、安楽寺という寺院があったと伝えられ、現在でも地元の方々は、この地を「あんらくど」と読んでいるそうです。寺跡は畠地となっていますが、その隣には、江戸時代の武士たちの墓石が残っています。また、この墓地からは南東方向に眺望が開けており、晴天時には木花の運動公園まで見渡すことが出来ます。

安楽寺跡からの眺望

宮崎交通中野バス停から平野・追分方面に県道を３００ｍほど北上すると、「花立」とよばれていた地区があります。日向灘まで見渡せる景勝地として知られ、安井息軒も漢詩を詠んでいます。ここにも近世の墓石が多く残っており、寺院の跡と思われます。その中に、安井滄洲・息軒父子の弟子で、平部嶠南とともに幕末維新期の飫肥藩政をリードした阿萬豊蔵（忠厚、1810～76）の兄、高橋元吉（藤蔵）の墓が残っています。「眞操高橋君墓表」と刻まれた墓碑は、碑文を実弟豊蔵が記しています。

ここのところ急に寒くなり、雑草も枯れ、古石塔めぐりにはいい季節になってきました。皆さんもお近くの石碑・石塔を探してみませんか？失われた寺院の跡かもしれません。　（文責：新名）

講座のご案内

◆きよたけ歴史講座⑧　講師：徳永孝一氏
演題：「川越進と清武の発展」
日時：1月10日（土）10時～11時30分